打出焼と精道村尚歯会

史料館研究員　藤川祐作

二〇〇八年夏に発掘調査がおこなわれた芦屋市呉川町呉川遺跡二地点で、明治末から昭和初期にかけての食器、生活道具などが大量に出土した。食器類は陶磁器で「ノリタケ」をはじめ高級洋食器が出土し、その中に「打出焼」破片五点が報告されている。

この一帯は、一九八八（昭和六三）年に発見された徳川大坂城東六甲採石場岩ケ平刻印群から下された船積み前の石材集石場である。今日まで五ケ所から計一九石の石材が発見され、それぞれ保存、活用されている。さらに宮川川床には干潮時の折、数石の石材を見ることができる。

今回の現場の東、南北道路が拡張される際、道路と平行して流れる大溝川が暗渠化され、旧川床からも「打出焼」一〇数点が出土している。

出土した五点の内訳は、皿一点、碗二点、小鉢一点、徳利一点。この徳利に「精道村　尚歯会」と記されている。コバルトブルーの半磁に近いもので、全体のほぼ二分の一、下部のみで現高五センチメートル、底部の直径四・七センチメートルで、隠し高台で「精道村　尚歯会」と二行に記され、行間最下部にひらがなで「うちで」（一・一センチメートル×〇・六センチメートル）と印されている。

「精道村　尚歯会」について述べる前に、「尚歯会」について先に触れてみる。

一九一一（明治四四）年に文部省に「通俗教育調査委員会」が設けられた。「通俗教育」とは、一般に誰にでもわかりやすく教育することで、今日の社会教育にあたる。道徳、体育などを推し進めると共に、知的認識能力、思考能力を高めることも教育し、社会福祉も追い求めた。

▲出土した打出焼徳利

一八九〇（明治二三）年に発布された「教育勅語」に続くもので、日露戦争（一九〇四～一九〇五）、一九一〇（明治四三）年に起きた明治天皇暗殺を企てたとされる大逆事件など当時の動揺する社会を背景に、国民一丸となることを目指し種々の政策を実行した。その中の一つとして、高齢者すなわち老人を尊敬し大切にする事業として、「尚歯会」が地域ごとに設立されたものと思われる。「歯」とは年齢をさし、「尚」とは老人への尊敬を意味する。

『武庫郡誌』（一九二一＝大正一〇）年を見ると、良元村（宝塚市）、住吉村（神戸市）、御影町（神戸市）は一九一一（明治四四）年に設立されており、良元村では、本村教育会主催で、七〇歳以上の高齢者が招待され、茶会、児童の学芸会などで一日を過ごした。

住吉村では、同年一二月二三日に七〇歳以上の高齢者を招いた慰安の一日を過ごした。毎年出席者は八〇人から一〇〇人を数えた。

御影村では、はじめ御影尋常小学校主催だが、一九一七（大正六）年からは御影町の主催にかわっている。七〇歳以上の高齢者を招待し、幼稚園児、小学校児童などが演じた。一九三三（昭和八）年からは御影公会堂に場所を移している。この時の必要経費は町費、寄

付金があてられ、清酒などの寄付もあった。

次に西灘村では、一九一三（大正二）年一〇月に同村教育会が開催、村の補助金と有志の寄付でまかなった。

地元本庄村では一九一五（大正四）年一〇月二〇日に村長深山廣三郎により開催され、七〇歳以上の七八名が出席した。

以上がこの地域での「尚歯会」の活動の一端である。ただ大正二～四年と開催が遅れた原因については、目下のところなぜか不明である。

前述したように各地域ごとの「尚歯会」がいつまで続いたのかははっきりしないが、おそらく太平洋戦争勃発など、戦時色が濃くなった頃に途絶えたのではないか。いくら高齢者を大切にという気運があっても戦地へ働き盛りの若者を送り出したり、勉学に励む学生を学徒動員したりする中、祝い事どころではなかったのではないかと推測している。

さて、精道村については目下のところ記録を確認していない。精道村はそれまでの三条、津知、芦屋、打出四村が一八八九（明治二二）年に精道村となり、一九四〇（昭和一五）年に町制から芦屋市制へ移行した。

精道村においても前述した各村の設立から推測して、一九一一（明治四四）年から一九一五（大正四）年の間と考えてさしつかえはないであろう。その折設立記念品として参列者に配られたのであろう。明治四四年と言えば、打出焼初代坂口砂山が楠町の斎藤幾多のお庭窯を引き継いで春日町で開窯した直後の作品と思われる。

精道村から芦屋市へ至るまでの「尚歯会」についての記録はなく、当市において「尚歯会」について知る市民もすべて故人である。

戦後芦屋市における老人会の活躍を調べてみると、一九五五（昭和三〇）年代、市内在住の画家青木氏がサークル風の老人クラブを結成し、一九五七（昭和三二）年に親王塚町の倉本氏が、一九五八（昭和三三）年には大原町の天羽氏と福田貞治氏、一九六二（昭和三七）年には楠町の小林董次郎氏が各町で老人会を結成し、一九六三（昭和三八）年、老人福祉法の成立を前に、六月一三日、各町の老人会を「芦屋市老人クラブ連合会」とし、今日、市内には五一クラブの老人による多種多様の活動がおこなわれている。

今回の小稿執筆にあたり、芦屋市教育委員会の学芸員四氏には快く了解をいただきました。また多くの関係者にお世話をおかけしました。本来ならご芳名を記するところ紙面の都合上、失礼ながら割愛させていただきました。

参考・引用文献

「文化財特集　考古学が解き明かす芦屋」『広報あしや』一〇〇一　二〇〇八年一二月
藤川祐作「六甲山系の徳川大坂城採石場と積み出し地」『歴史と神戸』一六八　一九九一年一〇月
白谷朋世「打出焼」『のじぎく文化財だより』四一　一九九五年八月
亀山昌也メモ
吉川正通「明治末期「通俗教育調査委員会」制度の一考察―社会教育観と社会福祉観―」大阪府立大学社会福祉学部『社会問題研究』一九七九年一〇月、二九巻三号

神戸深江生活文化史料館が創立三〇年

神戸深江生活文化史料館は、一九八一年二月二十一日、神戸・深江生活文化史料室としてオープン、今年で満三〇年を迎えました。財産区管理会のご理解と地域の方々の支えでここまで到達しました。今後も地域と連携し、研究と普及活動を続けたいと思います。